

平成16年3月期 第1四半期業績の概況（連結）

平成15年7月29日

上場会社名 マミヤ・オーピー株式会社

（コード番号：7991東証第2部）

（URL <http://www.mamiya-op.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職名 代表取締役社長

氏名 松井 嘉正 （TEL：(048) - 858 4880）

責任者役職名 常務取締役管理本部長

氏名 志田 太利夫

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

- 財務諸表等の作成に際して準拠した基準 : 中間連結財務諸表作成基準
 会計処理方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 有 影響額が僅少な項目につき、一部簡便的処理を用いております。
 連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 無
 公認会計士又は監査法人による関与の状況 : 無

2. 平成16年3月期第1四半期の業績概況（平成15年4月1日～平成15年6月30日）

（1）経営成績（連結）の進捗状況

（単位：百万円未満切捨て）

	売上高		営業利益		経常利益		当期（四半期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16年3月期第1四半期	3,235	34.3	83	84.0	3		77	
15年3月期第1四半期	4,923		525		452		358	
(参考) 15年3月期	17,557		1,684		1,456		631	

（注）海外子会社「ソニー・エレクトロニクス・インコーポレーテッド」は、決算期変更（従来3月期より12月期へ）により16年3月期第1四半期の実績には含まれておりません。尚、同社の15年3月期第1四半期の業績は売上高11億45百万円、営業利益2億29百万円、経常利益2億29百万円です。

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
16年3月期第1四半期	2.00			
15年3月期第1四半期	9.22			
(参考) 15年3月期	16.23			

（注）売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示す。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期におけるわが国経済は、イラク戦争や、SARS流行の影響および景気の先行きに対する警戒感が強まり厳しい状況で推移致しました。

このような状況下、当第1四半期の売上高は32億35百万円（前年同期比34.3減）、経常損失3百万円（前年同期比4億55百万円減）、第1四半期純損失77百万円（前年同期比4億36百万円減）となりました。

次に部門別に報告致します。

電子機器事業部門では、パチンコ業界における新規投資抑制の中カードユニットの受注で売上高は23億4百万円（前年同期比2.1%増）となりました。

光学機器事業部門では、中判フィルムカメラ市場が一般高級品のデジタル化の影響および海外においては米国のイラク攻撃に加えSARSの影響等で、売上高は7億9百万円（前年同期比50.5%減）となりました。

スポーツ事業部門では、海外子会社「イテッド スポーツ・テクノロジーズ・インコーポレーテッド」は決算期変更により当第1四半期の業績には含まれておりません。(同社の前年同期個別業績、売上高11億45百万円、営業利益2億29百万円、経常利益2億29百万円)一方、国内につきましては、ゴルフ市場の低迷の続く中、ジャンボ尾崎氏と提携した「ジャンボバージョン」「ジャンボモデル」等の販売で売上高は1億10百万円となりました。

特機事業部門では、新製品の測定機器等の製品化により今後事業の柱としての確立を目指しますがまだ業績には寄与しておりません。よって売上高は1億11百万円となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
16年3月期第1四半期	26,336	2,780	10.6	71.51
15年3月期第1四半期	28,719	2,460	8.6	63.20
(参考) 15年3月期	28,155	2,795	9.9	71.91

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
16年3月期第1四半期	539	38	1,091	4,684
15年3月期第1四半期	895	124	1,543	6,274
(参考) 15年3月期	1,442	382	1,839	6,277

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の減少は5億39百万円(前年同期比14億34百万円減少)となりました。これは売上債権の減少3億95百万円等の資金増加要因があったものの、たな卸資産の増加2億83百万円、仕入債務の減少7億71百万円等の資金減少要因があったことによるものであります。

・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金は38百万円の増加となりました。(前年同期比1億63百万円増加)
これは有形固定資産の取得による支出45百万円および定期積金の預入による支出79百万円があったものの、土地の売却による収入1億80百万円があったことによるものであります。

・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の減少は10億91百万円(前年同期は15億43百万円の減少)となりました。これは主に短期借入金の返済(純額)10億92百万円によるものであります。

これらの結果、現金および現金同等物の当第1四半期末残高は、期首残高から15億92百万円減少し、46億84百万円となりました。

(参考1) 第1四半期個別経営成績等の概況(平成15年4月1日~平成15年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期(四半期)純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
16年3月期第1四半期	3,212	47	100	224
15年3月期第1四半期	3,800	254	169	162
(参考) 15年3月期	14,547	940	659	372

	総資産	株主資本
	百万円	百万円
16年3月期第1四半期	24,352	2,386
15年3月期第1四半期	26,333	1,965
(参考) 15年3月期	25,908	2,094

[業績予想に関する定性的情報等]

平成16年3月期の連結・個別業績の中間期および通期の業績予想については、平成15年5月16日に開示しました内容を変更致しておりません。

以上